

漢字は言葉そのものより覚えやすい

すでにお話ししましたように、音声としての言葉というのは意外に覚えにくいものです。“口”という簡単な言葉でも“く”“ち”という二つの音で構成されています。“くち”という二つの音が続け様に出てきますから、どんなに注意して聞こうとしても、その言葉のわからない子どもにはとても受け止められません。知らない外国語の発音を二度や三度聞いても覚えられないのと同じです。それに、音声はいきなり見せられ、発せられるや否や消滅してしまいますから、瞬間的に捉えなければなりません。

そこへいくと漢字は、目を開けていさえすれば視覚から入って来て、脳が必ずこれを受け止めてくれます。「これは“くち”だよ」と言うだけでは脳は言葉として受け取れなくとも、“口”という漢字だったら目に入って必ず脳に記録されるのです。

つまり、漢字というのは、言葉そのものよりずっと覚えやすいものだと言ってもいいでしょう。

この 70 年間、多くの学者たちがチンパンジーの子に言葉を教えようと、熱心な実験を試みましたが、皆失敗しました。それで私は、「チンパンジーには言葉そのものを覚える能力はないだろう。だが、漢字を教えたら覚えるに違いない」と、この 20 年間、言い続けてきたのですが、とうとう、京大の松沢教授がチンパンジーに漢字を教えて覚えさせることに成功しました。これによって、「漢字は言葉そのものより覚

えやすい」という私の説が動物レベルでも見事に証明されたことになります。